

公開講座 持続可能な「まちづくり」とは



講師：石山 紗希 さん（株式会社 ORANDO PLUS 代表取締役）

青森市出身、弘前市在住。弘前大学卒業後、青年海外協力隊に参加し、ガボン共和国へ。2年間、現地で農業支援を行う。帰国後は東京のNPOに3年間勤務したのち、弘前市の地域おこし協力隊としてUターン。2018年地域課題解決や新たな産業創出の取り組む「Next Commons Lab」の現地コーディネーターとなる。2022年、株式会社ORANDO PLUSを創業。

▶ 地域コーディネーターという仕事

地域コーディネーターは、まちづくりや地域活性化などに取り組んでいる地域では、必ずと言っていいほどの存在となっています。

私の場合は、外部人材と地域の人や企業・自治体等を繋いでいます。意欲のある若者・何かしたい人と思っている人と、企業・自治体・大学等の地域の関係者を、お互いが気になるようなプロジェクトを作り、伴走支援をしていく仕事です。

具体的にどのように落とし込んで仕事をしているかということ、「人づくり」と「場所づくり」の両輪を組み合わせた事業をしています。



▶ なぜ今の仕事をしているのか？強い原体験から気づいたこと

今の仕事をしているのは、ガボンでの強い原体験があったからです。あらゆることが違う国で、アイデンティティの部分強く意識したり、日本では普段されることがない質問を受けたりして、無意識に色々な常識に囚われていたのだと、考えさせられました。先入観が物事の見方を邪魔し、自分の常識の中でしか物事を考えられなくなり、狭い物差しでしか測れなくなるのはすごくもったいないことだと思います。青森の先入観を持っていませんか。地域課題を考える際は、自分なりの仮説を持ち、ベクトルを自身に向ける癖を持ち、「地域」を主語にしない（「地域」とは「人」の集合体でしかない）で欲しいと思います。



▶ 思いをプロジェクトにするコツ

- 小さいプロジェクトからは始める（マイプロジェクト・4つのポイントを繰り返してみる）
- 未来の状況「達成すべき状態」を明確にすることが大切
- プロジェクトは、現状（なんとかしたい）と未来（これが実現してほしい）の間にある
- プロジェクトをまとめる視点を持ち続ける

▶ 最後に

その人なりの小さなチャレンジやアクションが積み重なっていくことが、持続可能なまちづくりと思います。まず、やってみる！！活動しながら、どこに向かっているのかその時々で最適解を見つけていく。自分の人生に「当事者意識」を持ち、取り組んでいくと今よりもっと面白くなると思います。

参加者の声

- * 地域活動を行っていくうえでの考え方、現在抱えている悩みのヒントになりました
- * 自分の原動力は何か？きちんと考え小さな事から実行しようと思えました